



## 大子町 東京からの移住

19



## 一軒家のリフォーム

Daigo Town

Mさんは大子町で妻と二人暮らしの60代男性。都内の医療業界でキャリアを積み、定年退職を機に奥様の故郷だった大子町へ移住。週末は自宅の前の広い敷地に家庭菜園をつくり野菜を育てながら、愛猫2匹と一緒に田舎暮らしを満喫している。

当初は東京でのビジネスマンとしてのキャリアに区切りをつけ、都会の生活を全てリセットしてリタイアする覚悟で移住。畑仕事に明け暮れていたが、働く気力も体力もまだまだあると実感し、奥様もまた働き出したことがきっかけで嘱託職員として大子町役場での仕事を開始。現在は自身が空き家バンクを利用して移住した経験を活かして、大子町の「だいが暮らし・空き家バンク相談センター」でコーディネーターとして勤務。これまで4年間で約350人の移住を検討している人たちの相談を受け、大子町の移住仲間を増やすべく業務にあたりながら、週末は悠々自適な田舎暮らしを体現している。



### Q. 空き家を購入したきっかけはなんですか？

都内でバリバリに働いていた50代の頃、私の健康面について医師からリスクの可能性があると診断されたことが大きなきっかけでした。東京では多忙な日々を追われストレスフルな生活を送っていましたが、今後の人生について深く考えることになりましたし、近い将来東京でのキャリアや人間関係を一旦捨てて、老後は田舎でのんびり暮らそうと思うようになりました。ちょうどそんな事を考えていたタイミングで妻の母親が認知症を患い、妻の実家がある大子町を度々訪れるようになりました。東京と大子町を往復するなかで、東京との程よい距離感と大子町の自然豊かでのんびりした雰囲気がとても気に入りました。その後、大子町の空き家バンク制度を利用し物件を探しました。幸いにも、その後の検査で健康面には大きな異常はなく、毎週末の畑仕事を楽しみに暮らしています。



### Q. 物件を購入する決め手となったポイントは？

初めはインターネットの不動産情報サイトを検索していました。水戸市の不動産業者が大子町の物件を掲載していたので問合せをしたんですが、水戸から大子町までは遠いし、それもあってか担当者の対応は渋かったですね。結局自力で現地を直接確認して、町内の不動産業者に仲介を依頼して売買まで至ることができました。何度も大子町に足を運んでいたのでも、掲載されている物件にどうにか辿りつくことができましたが、田舎では物件をインターネット上で探すのはとても困難だと思います。



取り扱っている不動産業者も思うように対応してくれることはあまり期待しない方が良いと思っています。空き家バンクの担当者として働いているのも、私自身のそのような経験が大きな要因ですね。

### Q. 物件を購入する決め手となったポイントは？

東京ではマンション暮らしだったので、地面や土を所有することに憧れていました。畑で野菜を育てたり、広いスペースでゆったり過ごしたいと思っていたので、物件を決める際は庭（敷地）や建物の広さ、縁側からの景色などに重点を置きました。おかげさまでこの家は敷地も広く畑もバッチリ。リビングからつながるウッドデッキごとに自分たちが作った畑を見渡すことができます。リビングは和室だった部屋をつなげて、キッチンが妻の要望で対面式にしました。2階には寝室以外にも2部屋あり、夫婦二人で暮らすには持て余すくらいです。リフォームにはこだわりがありましたが、やりたいことがほぼ叶いました。休みの日は育てた野菜を収穫して料理をしたり、ウッドデッキでコーヒーを飲みながらのんびり過ごしています。

### Q. 物件の購入費用はどのくらいでしたか？

物件の購入費用は220万円くらいでした。売値は300万円が出ていましたが、空き家バンクの担当の方が所有者さんと丁寧に交渉してくださり、値下げに応じていただきました。